

1 今年度の取組目標と方策

〔1〕教育活動の目標と方策

(1) 学習指導：基礎基本の徹底と「学習サイクル」の定着による主体的な学びの促進

- ① 学力スタンダードの計画に基づき、5教科の該当科目において年2回、自校作成問題で実施した。次年度からは1・2年生においてオンライン個別学習を導入した学力スタンダードに移行する予定である。
- ② 各学年とも4月のオリエンテーションでそれぞれの学年に応じた学習方法について指導した。3年生にはこれまでの学力分析の結果を参考に、志望校決定の指導につなげた。6月には数学（1年生）、11月には日本史（3年生）で授業研究会を実施した。
- ③ 学習サイクルとして「予習→授業→復習→確認テスト→フォローアップ（個別指導）」のスタイルを提唱して4年目となり、予習・復習をさせる指導が定着してきた。しかし、生徒家庭学習時間は十分でなく、この取組では家庭学習（最低60分）を定着させる課題を残した。
- ④ 年3回の読書週間を設定し読書教育を推進した。図書館の貸し出し本の数や利用生徒数に増加の傾向が現れてきた。
- ⑤ アクティブラーニングの研究と実践を提唱し、若手教員を中心に調べ学習や課題解決学習の頻度が高まった。また、レポート作成時には考察等で論理的思考力を、発表時には表現力を育成させようとする意図的な授業構成が図られるようになってきた。
- ⑥ 生活指導統一基準の徹底も視点に置き、教員がチャイム前入室すること、時限終了チャイムの前に授業を終えないことを目指してきたが一部に不徹底な面を残した。
- ⑦ 土曜日を年間19回実施した。
- ⑧ 1年生では、朝学習として英単語学習「アサタン」を実施した。2年生では、日々の振り返りのためのノートを作成し、学習意欲を喚起する取組みを実施した。3年生では、1学期から放課後に受験向け講習（国数英）を行った。
- ⑨ 長期休業日中（夏60講座 3264名参加、冬12講座 184名参加 計72校座 3448名参加）に補習・講習を実施し、受験実績の向上とともに学力の伸長を図った。
- ⑩ 環境教育の一環として、長野県伊那市のNPO、葛飾区などと連携して、奉仕体験合宿（5年目）や奉仕体験（地域清掃）を実施した。
- ⑪ 東京理科大学との間で「学生インターンシップ」の協定を締結し、理数研究校の一環として東京理科大生による生徒の学習支援を行った。

(2) 進路指導：一人一人の生徒が希望する進路を実現

- ① 保護者会（全体会）での進路講演会の実施及びクラスごとの懇談会、学年進路だよりの定期配布、夏季休業日中に三者面談を実施するなどして、保護者の大学への進学意識を高めた。
- ② 学力分析会を7月と10月に実施した。実力テスト業者の担当者から本校生徒の経年変化や今後の進学指導について示唆を受け、生徒指導上の課題を整理することができた。
- ③ 進路説明会では、大学・短大、専門学校、公務員・就職など生徒の希望に応じてきめ細かく指導することができた。大学希望者には指定校を、専門学校希望者には職業選択につながらない学校を、安易に選択をさせない指導を行った。
- ④ センター試験には、112名が出願し（昨年は124名）、92名が受験した（昨年113

名)。このうち22名が志望校に合格した(昨年34名)。一昨年は36名受験で5名合格であった。受験者と合格者については前年度からの増加は見られなかったが、従前からの変化は伺え、今後も指導形態の基盤の一つとして定着させていく必要がある。

- ⑤ ファインシステムを活用して生徒の学力状況を把握した結果を個別指導に生かしたり、保護者会での説明資料に活用したりしていく姿勢が広がっている。

(3) 生活指導：基本的な生活習慣の確立、品位ある身だしなみ指導、授業規律の確立

- ① 生活指導統一基準に基づき、次年度からの身だしなみの指導を確立した。遅刻については、年3回、「遅刻0週間」を実施し優秀クラスを表彰した。今後は指導方針を、遅刻「0週間」から「0習慣」への指導に転換していく。
- ② 挨拶・服装については朝の校門指導で、頭髮・ピアス・化粧については確定考査の期間で実施した。一部に不徹底な面を残すも指導の成果は上がってきている。女子のスカート丈の指導については、購入時の適正に採寸された長さにして着用するよう指導し、1, 2年生では指導の成果が現れてきている。
- ③ 授業中の携帯電話持込禁止の指導は徹底され、指導件数は微少となった。机上の不要物の撤去など授業規律については、一部に不徹底な面があり課題を残している。
- ④ 自転車通学者への安全指導を行っているが、軽微ではあったが被害にあう事故が数件発生した。また、加害者となる事故も数件発生した。近隣の方々から交通マナーについて苦情も寄せられ、交通マナーについては教室掲示用のポスターを作成し意識啓発を図った。

(4) 特別活動・部活動

- ① 終業式等で表彰する機会を多くしたことで、部活動に取り組む姿勢に高揚感が生まれてきた。学校見学会・説明会の開催日と体験部活動の日程を重ねたことで、参加者が増えた。
- ② 重点支援部活動に2年連続バドミントン部、ソフトテニス部、吹奏楽部を指定した。これらの部については、活動実績の向上が見られた。吹奏楽部は3月に第二回定期演奏会を実施した。
- ③ 文化祭では生徒会が中心となり、昨年に引き続き二回目の昼夜祭を企画・立案し成功させた。
- ④ 美化委員会が中心となって、ゴミの分別、ゴミを出さない運動を実施してきたが、ゴミの分別では不徹底な面があり、改善に向けた新たな取り組みが必要である。
- ⑤ 部活動や生徒会役員が中心となり、地域行事、ボランティア活動、奉仕活動に参加した。
- ⑥ 1年生で宿泊奉仕体験学習(5年目)を実施した。指導体制も定着してきたが、長野県伊那市NPOとの連携協定がH29年度までとなり、その後、継続を含めて方向性を検討する必要がある。

(5) 健康づくり

- ① 一年生全員に対して、スクールカウンセラーによる集団での面談を実施した。
- ② スクールカウンセラーの対応により、早期・適切に生徒の悩みを解決した案件が数件あった。
- ③ 「健康づくり推進計画」をもとに、保健講話や薬物乱用防止講話を実施した。
- ④ 1年生において、関係中学校と連携し特別な支援が必要な生徒の状況を把握し、適切な生徒対応を行った。その際、都立葛飾特別支援学校とも連携し、教員研修会を実施することで生徒理解や対応力を高めていくことができた。
- ⑤ 月1回の保健だよりの発行とホームページへの掲載を通して、生徒の健康意識を高めた。
- ⑥ 運動系部活動の希望生徒に対して7月に救急法講習会を実施し、応急処置の知識・技能を習得させた。

（６）募集・広報活動

- ① 学校説明会では、全体説明を３回、個別相談を１回実施した。学校見学会（夏期休業日中５日で７回、放課後は毎週火曜日）を実施し、前年より１２０名増の２４８５名の参加があった。部活動体験については充実度がアップしたものの、授業体験については１１月に１回、数学と理科で実施したが参加希望者が少なく低調であった。
- ② 学校説明会資料、ポスター、ホームページを改善し、ＰＲ活動を充実させた。
- ③ 授業公開週間を年２回実施したが参加者は少なかった。部単位での中学校の部活動との合同練習は広がりを見せてきた。
- ④ 学校開放（公開講座として文学歴史講座・パソコン教室、施設開放）を実施した。

（７）学校経営・組織体制

- ① 学校経営マネジメントを推進するための主幹会議は、隔月に一度程度の開催となり年間５回の実施に止まった。
- ② 主幹会議では、喫緊の学校経営上の課題について検討し、担当部が迅速に対応していった。そのため、教務部と生徒指導部においては即時性と機動力が高まることで、短時間のうちに指導方針が具現化されるようになった。
- ③ 研究部は、学力スタンダード、公開授業研究、校内研修を推進した。計画部は、奉仕体験合宿、特進クラスの推進及びオリンピック・パラリンピック教育などを推進した。相談部は、スクールカウンセラーとの連絡調整や保健・応急対応補助などを推進した。
- ④ 理数研究校の取組として、東京理科大学との間で「学校インターンシップ」を締結したことにより、東京理科大学の学生からの学習支援を受けられるようになった。放課後の自習ではチューターとして関わってもらい、生徒の学習意欲向上につながった。
- ⑤ 若手中心に進展してきたＩＣＴ機器の活用、アクティブラーニングの実践者が増えてきている。少数ではあるがベテラン層にもその影響が波及してきた。
- ⑥ 葛飾区教育委員会との教育連携の「進学重点教室」、「寺子屋かつしか」を推進して４年目となった。２学期以降、「進学重点教室」への参加率低下がした。年間を通して参加率を維持していくことが課題である。
- ⑦ 経営企画室の学校経営参画機能を充実させる。
 - ・ 学校の窓口として、コンプライアンスの実践に努めた。
 - ・ より良い接遇を目指してきたが、来校者から不満の声も寄せられた。
 - ・ 費用対効果を重視して、効果的・効率的な予算執行を図った。
 - ・ 施設設備の老朽化が進行しているため、日々の点検を遅滞なく行うことで、安全・衛生の維持に努めた。大きな事故はなかったが、修繕依頼の回数や頻度が増えてきている。
 - ・ Ｈ２６年度に作成した「先生のための事務等の手順書」を有効活用することで、基本的な対応ルールが共有され、経営企画室と教員との相互連携が強化されてきている。

〔２〕重点目標

（１）学習指導

- ① 長期休業日中（夏・冬）の講習を７２講座実施し、延べ受講者３４４８人であった。
- ② ６つのグループ別授業検討会において、年平均３．８回研究授業を実施した。
- ③ 授業研究会（研究授業＋協議会）を年２回行った。

- ④ 年度末の学校評価アンケートでは、家庭学習を毎日1時間以上実施している者は、1年生では14%、2年生では17%、3年生では45%であった。昨年と大きな変化はなかった。

(2) 進路指導

- ① 大学・短大進学率は47%であった。
② センター試験の出願者数を112人であった。
③ 浪人を除く進路未決定者を3%であった。

(3) 生活指導・部活動

- ① 全校で遅刻者0人の日は無かった。
② 全校生徒に対する1日あたりのクラス遅刻者は18%であった。
(1年生 5%→2人程度、2年生 31%→12人程度)
③ 全学年の部活動加入率の平均を73%であった。
④ 部活動での中学校との連携を14部で実施した。

(4) 募集・広報活動

- ① 学校見学会、学校説明会の延べ来校者数を合計2485人で、前年度比11%増となった。
② ホームページの更新回数を年間70回程度であった。